夏の風物詩ホタル

ホタルは、夏の風物詩として古くから愛され、人の心に安らぎを与えてきました。ホタルが飛び交う自然は、多くの人に郷愁を呼びます。日本人のホタルに対する愛着は非常に強いものがあります。

そのホタルは、河川の汚染や改修工事あるいは水田、畑からの農薬の流出や家庭からの生活雑排水の流出によって、姿を消してしまいました。ホタルが生息し、飛び交うためには、適切な水環境とエサになる生物の生息が保障されていなければなりません。

今、全国各地で失われたホタルを取り戻そうと運動が起こり、水環境の整備を行い、ホタルを養殖し放流しています。

ホタルが育つ環境

ホタルは、水辺を中心とした環境に生息しています。これは、幼虫の時を水の中で過ごすからにほかなりませんが、水がきれいであるとか、水が流れていれば生息できるというほど単純ではないようです。ホタルは、卵から幼虫、さなぎ、成虫と姿を変えますが、それにともない生活する場所も変えるのです。卵には水辺のコケ、幼虫には水の流れ、さなぎには土の土手が必要であり、これらの環境は水辺を中心としながらも地域全体の生態系に深く関係しています。ホタルの成虫が華やかな光を放ち、私たちの目を楽しませてくれる期間は、1週間から10日しかありません。それ以外、1年の大半は水中か土中で生息しているため、水質、水温、水量、土質、地温などから大きな影響を受けます。成虫には、外敵がなく安全に飛ぶことができる薄暗い空間が必要になります。ホタルは、水中、土中、陸上の3つの環境がすべて整っていないと生存できないのです。

ホタルを守ること

昔と比べ子供たちが自然と触れ合う機会が、ずいぶん少なくなってきています。自然と触れ合うことで生まれる心の情緒も失われつつあります。ホタルを守ることは環境を守ることであり、私たち日本人の文化を守ることなのです。

ホタルを観察するときの４つの約束

▶ホタルを持ち帰らない

現在ホタルを見ることができる場所は、地元を中心とした多くの人たちの努力によってその環境が維持されています。ホタルを採って家に持ち帰るようなことはしないでください。

羽化した成虫は、２週間ほどしか生きることができません。生命の尊さを感じつつ静かに観賞するようにしたいものです。

▶服装や持ち物に気をつける

クツ：足場の悪い所もありますから運動靴などで出かけましょう。

雨具：雨の多い時期ですから雨具も用意しておいた方がよいでしょう。

電灯：観賞する場所まで暗い夜道もありますから必需品でしょう。

観賞現場に近づいたら、懐中電灯などの灯りを消すことも忘れないようにしましょう。

▶周辺のお宅に迷惑をかけない

ホタルの観賞は、夕方から深夜にかけての時間帯になります。観賞地のまわりを車で走り回ったり、大きな声で騒いだりしないでください。もちろん、田んぼや畑、他人の敷地に無断で入ったり、ゴミを捨てたりすることは言語同断です。車の置き場所に気をつけたり、停車中はエンジンを切るなど細かい心づかいも必要です。

▶子どもだけで見に行かない

防犯上の理由からも大人の人や家族の人と出かけましょう。

またホタルが見られる場所は、川に沿ったところがほとんどですから、よく知っているような場所でも子どもたちだけで出かけることは避けましょう。思わぬ事故や犯罪に巻き込まれることがないよう、常に大人が注意していましょう。

参考文献：梶田博司・青山勲著　大学教育出版発行　ホタルと人と文化 (2010年)